

議事録【第3回百間川河口水門周辺有効活用方策検討協議会：意見概要】

河口水門に関わる事項

区分	意見概要	事務局等による回答等
水質・底質について	河口部での酸化還元電位は、継続して調査されたい。シミュレーションに対して、必ず後で追跡調査を行い、検証されたい。浚渫については、目的を明確にし、水質・底質の相互作用を把握した上で実施されたい。	事業の実施上、追跡調査は必要なものである。また、関連する調査も継続的に行っていきたい。
水門操作・高島干潟の保全について	2つの水門は同時に開けるのか、それとも操作は別々となるのか。	洪水時には全開操作するとし、平常時には操作方法による水質改善や維持・管理などの要望も踏まえ、検討していきたい。
	干潟が小さくなっている要因を確認されたい。	水門操作による干潟への影響については、調査検討を続けていく予定である。
	洪水時に百間川に流れる量が約2倍になるが、これに対する高島干潟の保全について検討されたい。	
	計画洪水によって干潟がどうなるかの検討は行っていないのか。	既存の検討結果について、次回の協議会で提示したい。
河川管理について	ゲート下流にて、流速を抑える減勢工の設置を検討するようであるが、干潟自体での対策（干潟の再生等）は考えていないのか。	干潟は河川管理者が直接手を付けられる立場にないが、河川管理者として可能な限り、協力はしていきたい。なお、新水門からの排水においては、できる限り干潟への影響を抑える方法を検討していきたい。
	新水門では、大きなゴミや流木をどう処理するのか。	現水門と同様、必要により清掃するなど適切に維持・管理していきたい。
流域全体の治水について	上流部で橋の計画があるが、橋脚に流木などが当たり、流れを阻害する恐れはないのか。	橋脚間の距離は、洪水時の水位、ゴミや流木も想定して決めている。なお、ゴミ対策は、市民の協力も頂きながら対応していきたい。また、植生管理のあり方については、治水面だけでなく自然環境の保全も含めて検討していきたい。
	昭和9年と同じ規模の洪水が流れ込んできた場合、過去と比べて現在の百間川の処理能力はどのくらいか。	現況では計画洪水は流れない状況であるが、河口水門の増築と分流部を改修することにより、計画洪水を安全に流すことが可能となる。
事業内容・周辺有効活用について	百間川下流の左岸（岡東浄化センターから河口までの区間）には、道路の計画はあるのか。	左岸の道路計画は、市（占用許可）の所管であり、市に確認した上で、次回の協議会で提示したい。
	現水門西側の残土処理地整備工事とは、埋め立てるという意味か。また、東側はどうなるのか。	水門工事の残土処理地として埋め立てる予定であり、将来的には水防拠点としての活用を計画している。なお、水門東側については、埋め立てる計画はない。
	増築される河口水門の完成予定は。	平成19年度完成を目指している。

その他の意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ 児島湾全体における干潟、藻場の減少状況やその原因などを、どこかが調査していく必要がある。また、夏場における旭川下流の無酸素状態について、経年的な調査を続けてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 希少な植物等をどう保護していくのが今後の問題と考えている。生き物の変化は、ここ20年間で相当大きく現れているが、それが底質の問題、水質の問題だけなのか。その他、周辺環境が今後どう変化するかも見なければいけないと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 旭西の浄化センターは、下水と雨水の処理場だが、八浜の方が完成しているので、八浜へ入れて旭川へ流さないで欲しい。（岡山市：今年から徐々に旭西の汚水分を八浜の方に送っている。旭西に対して最終的に放流される負荷量は徐々に減らしていく考えで進めている。）
<ul style="list-style-type: none"> ・ ダムによる洪水調節を天気予報を踏まえて適切に行って欲しい。（岡山県：下流への被害を最小限に食いとめるゲート操作に努めており、これまでのダム操作は適切であったと認識している。）